

## ★子どもへの接し方★

思春期の子どもは自分と他人を比べて違いを意識するようになります。

特性のある子どもは変化に敏感なため、不安感が特に強まる傾向にあります。また、対人コミュニケーションも複雑になります。そのため、子どもが安心して話せる環境を作り、周囲が子どもの特性を理解した上で、接することが大切です。

具体的には、

- ・程よい距離感で接する
- ・子どもの話をよく聴く
- ・できたことに着目して褒める
- ・必要以上に干渉しない
- ・社会や集団のマナーやルールをわかりやすく伝える
- ・体調不良のサインに注意する
- ・親以外にも相談できる人や機関を探す



また、その他にもできることとして、

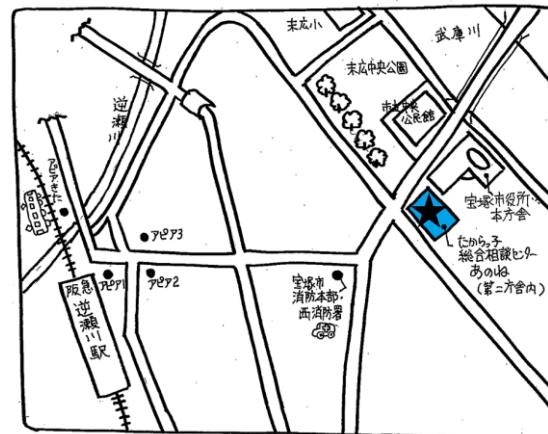
- ・学校の先生やスクールカウンセラーに相談する
- ・専門機関に相談する
- ・周囲に特性を知ってもらい、理解者を増やす
- ・自分の得意なこと・苦手なことの特性理解を少しづつ進める
- ・学校以外での学習の場を確保する
- ・進路選びや高校受験の準備を早めにすすめる

なども必要に応じて行うとよいでしょう。

子ども総合相談課では子どもに関する様々な相談に応じています。相談員がお話を伺い、一緒に考え、必要な情報や支援につなぎます。必要に応じて、医師や心理職などの専門相談も行います。

子どもの特性や普段の気になる様子について相談したいと感じたらぜひご相談ください。

アクセスマップ



〒665-8665

宝塚市東洋町 1-1(市役所第二庁舎 1階)  
たからっ子総合相談センター「あのね」内

### 子ども総合相談課

電話 0797-80-8171

FAX 0797-77-9128

月～金曜日 9:00～17:00  
(祝日・年末年始を除く)

中学生編

～子どもの発達シリーズ～

グレー、ノーンって  
知ってる？



子ども総合相談課

## ★グレーゾーンの子に見られやすい様子★

中学生になると定期テストに向けた計画的な勉強が必要になったり、授業内容も複雑になります。また、文化祭などの学校行事や部活動など、小学生の時より集団行動の場が増える中で、小学生の時に気づかなかった「発達特性」に気づくことがあります。

発達特性とは、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症の症状や特徴の一部をもつことを言います。

発達特性(強いこだわりやマイペースさなど)は子ども一人ひとり違います。

### 「グレーゾーン」って？

グレーゾーンとは、診断基準を満たさない程度の軽度の発達特性を持つことを言います。

発達特性があると生きづらさや学校生活でのストレスを感じやすく、二次障害を引き起こす場合もあります。

二次障害の具体的な症状は、

- ・身体面：頭痛や腹痛、朝起きられないなど
- ・精神面：不安症や強迫症、うつ病や摂食障害など
- ・行動面：不登校や引きこもり、暴言・暴力や自傷行為など

があります。

しかし、周囲の理解や適切なサポート、本人が意識して生活を工夫することで二次障害を防ぐことがあります。

対人関係	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 暗黙の了解やルールを理解しづらい</li><li>□ 場の雰囲気や相手の気持ちを考えられない言動をする</li><li>□ 学校のルールを守れないことがある</li><li>□ 断ることが苦手</li><li>□ 冗談や比喩が理解しにくい</li></ul>
行動面	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 計画が崩れるとイライラする</li><li>□ 同時進行で複数の作業ができない</li><li>□ ゲームなどに無断で課金をしてしまう</li><li>□ 際限なくゲームをする</li><li>□ 興味のあることだけにしか集中できない</li></ul>
学習面	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 授業中に寝ることが多い</li><li>□ 勉強についていけない</li><li>□ 提出物を期限内に出すことができない</li><li>□ 定期テストの勉強など計画的に物事を進めることができない</li><li>□ 話を聞いておらず、定期テストの範囲など大事な情報を聞き漏らす</li><li>□ うっかりミスが多い</li></ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 忘れ物をよくする 物をよく失くす</li><li>□ グループで行動することが苦手</li><li>□ こだわりが強い</li><li>□ 制服などの特定の服の肌触りなどが気になる</li><li>□ 整理整頓が苦手</li></ul>



## ★子どもの発達特性を知ろう★

発達特性に周囲の環境が合っていないかったり、適切な関わりができていないと、本人が努力してもうまくいかず生きづらさを感じてしまうことも少なくありません。自分自身でも特性を理解していないこともあります。また、中学生は思春期と重なるため精神的にも不安定になりやすい時期です。

家族や周囲の大人が困りごとの背景を知り、発達特性を理解して環境を整えたり関わり方を工夫することで、「困り感」やリスクを減らし、強みや長所を伸ばして自分らしく生活できるようになります。

### ★特性による困りごとへの対応★

- ① 文字や図を利用する
  - ・スケジュールを見やすい表にする
  - ・提出物などを忘れないために「やることリスト」を作る
  - ・持ち物のチェックリストを活用する
- ② 環境を整える
  - ・机の上は整理整頓し、勉強に関係ないものは置かないようにする
  - ・テレビなどの雑音を消す
  - ・適度に休憩を取らせる



※「困り感」は、学研の登録商標です。